

## 平成28年度 医療事故等行為別件数及び障害区分レベル4・5の概要

### (1) 医療事故等 行為別件数

平成28年度	レベル	インシデント			
		0	1	2	計
薬剤		194	527	39	760
輸血		6	6	0	12
治療・処置		27	60	19	106
医療機器等		12	29	3	44
ドレーンチューブ		14	129	61	204
検査		242	210	90	542
療養上の世話		185	698	120	1003
その他		132	135	14	281
計		812	1794	346	2952

アクシデント			
3	4	5	計
5	0	0	5
0	0	0	0
10	3	1	14
0	0	0	0
5	0	0	5
2	0	0	2
19	2	0	21
7	0	2	9
48	5	3	56

合計 3008

障害区分(レベル)	内 容	
インシデント	レベル0	事故が起こる前に気がついた場合
	レベル1	事故が起こったが、影響がなかった場合
	レベル2	事故により、軽微な処置・治療(消毒、湿布、鎮痛剤投与など)を要した場合
アクシデント	レベル3	事故により、処置・治療を要したが、永続的な障害が残らなかった場合
	レベル4	事故により、永続的な障害が残った場合
	レベル5	事故による死亡

### (2) 医療事故 障害区分レベル4・5の概要

NO.	レベル	事例の概要および対応	
1	5	概要	急性薬物中毒(自殺企図を繰り返していた): 入院後輸液継続し経過観察を行っていた。翌日痙攣がありその後心肺停止となり死亡した。
		対応	合併症の発生に注意し綿密な観察に努めるとともに、患者・家族に合併症発症について十分な説明を行う。
2	4	概要	子宮頸癌: 手術(広汎子宮全摘出術)中、大血管の損傷により大量出血があった。術後血行障害と神経障害が生じた。
		対応	今後とも慎重な手術手技に努めるとともに、患者・家族に合併症発症について十分な説明を行う。
3	5	概要	盲腸癌: 回盲部切除術施行後ドレーンからの出血があり再開腹止血術を行った。翌日急性循環不全、肺水腫で死亡した。
		対応	全身状態悪化している事例については慎重な手術手技に努めるとともに、特に合併症発症については十分な説明を行う。
4	5	概要	下咽頭癌: 進行癌が疑われる局所からの大量出血があり死亡した。
		対応	状況に応じて早期に予防的塞栓術などの適応について検討を行う。

5	4	概要	リウマチ性間質性肺炎： 廊下で転倒し外傷性くも膜下出血を発症しICUへ転棟となった。
		対応	医療者間での情報共有を密にとり介入していくとともに、患者・家族へに転倒のリスクについて十分な説明を行う。
6	4	概要	脳腫瘍： 腫瘍摘出術後に脳梗塞・脳出血を発症し、失語と四肢不全麻痺障害が生じた。
		対応	今後とも慎重な手術手技に努めるとともに、患者・家族に合併症発症について十分な説明を行う。
7	4	概要	原発不明癌： 内視鏡による食道狭窄拡張術時に食道穿孔が生じた。
		対応	今後とも病状に合わせた手術方法について綿密な検討を行うとともに、患者・家族に合併症発症について十分な説明を行う。
8	4	概要	胃癌： 病室で転倒し外傷性くも膜下出血を発症した。
		対応	状態変化に応じ転倒転落予防のアセスメントの再評価を行うとともに、患者・家族には転倒予防方法について十分な説明を行う

\* 公表については個人情報保護に配慮した内容にしています